

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年3月15日

事業所名 アフタースクール スマイルステーション谷町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子どもたちの様子を見て、相談室も使うなど配慮している。	保護者の送迎や子どもの入れ替えの時間でスペースの確保が難しい時があるので、順序よくできるように改善していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		マンツーマンの指導をいきわたらせるため、利用者一人につき必ず一人以上の職員がいる。	余裕ある体制にするため、職員の増員を予定している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	物理的に難しい場合は手助けする等している。	玄関にスロープなどが無いため、改善できればよいと思う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会議を行い業務改善のためのPDCAサイクルができている。	これからも、常に業務改善を進めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意向等を把握し、サービス向上に努めている。	常に保護者の意向等を大切にしてサービスにあたりたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページや会報で公開する。	ホームページや会報で公開する予定である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			第三者による外部評価は行っていないが、相談支援専門員や学校関係者などには適宜見学に来ていただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月2回ほどの研修の機会を設けている。	研修の機会を確保し、発達理解や対応法、心理学等について学んでいる。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		半年に1回、モニタリングを行いそれに伴い、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達検査などの結果を参考にしている。	今後、標準化されたアセスメントツールを導入したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		必ず打ち合わせをして立案している。	マンツーマンだが、ローテーションで支援者が変わっていくので、チームで指導プログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの様子を都度共有し、それに合わせてプログラムを変えている。	今後も常にプログラムを工夫してより良いものにしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		創作活動や運動などを取り入れている。	これからも長期休暇には日常と違う支援ができるよう、工夫していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		計画を立てて、さらに担当者を決めて具体的な指導計画を作成している。	個別がメインだが、集団での活動も組み合わせ、集団で関わる機会を設けている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、職員朝礼で打ち合わせを行い、さらにで情報をビジネスツールで共有している。	全職員のそろう日が限られているので、打合せや日々の記録・伝言を大事にしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ビジネスツールで情報共有している。特に気になることに関しては、改めて時間を作って共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援報告書のほかにも特記すべき点をビジネスツール等で共有している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回面談をしてモニタリングを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの特性に合わせて支援を行っている。	成功体験を積んで、自己肯定感を育めるようにしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者を中心に、子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画できるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	1	送迎は行っていないので、学校の行事等の情報は、主に利用者や保護者を通して共有している。	学校の情報については必要に応じて、学校と連携しているが、もっと密にしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者がそばに付いているが、常に子どもの様子を観察している。	保護者がそばに付いているので、主治医等とは連絡体制を整えていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			現在、そのような事例はないので、情報共有していないが、必要に応じて相互理解していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現在、そのような事例はないが、必要に応じて情報提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ペアレントトレーニングの研修を受け、保護者支援に生かしている。	今後もサービス向上のため、研修の受講を進めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		障がいのない子供との活動は特に行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		天王寺区子ども部会に参加して交流を図っている。	生野区の支援会にも参加しているが、中央区の子ども部会が開催されていないようなので、開催してほしい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際や支援報告書を通じて、状況を伝えあっている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者から相談があった場合、相談に応じている。	今後、ペアレントトレーニングを進めていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明している。	運営規定については、玄関に置いて、いつでも閲覧できるようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個別対応や、定期的に講演会を実施している。	いつでも相談に応じられるよう、毎月の会報で呼びかけていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		パンフレットを置く、講演会後に保護者同士の連携できる時間を設ける等している。	保護者会は開催していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情やニーズについて迅速に対応している。	同じような苦情が来ないように、改めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSを活用し、月に1回すまいる通信を発行している。	SNSの活用をさらに広げていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いについては、充分注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		送迎時に働きかけたり、電話をかけたりしている。	これからも意思疎通のために配慮をしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		他の事業所や地域住民の方と交流する活動は行っていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアルは常に掲示している。	契約時に説明しているが、充分伝わっていない可能性もあるので、広報していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練は、年3回行っており、子どもたちにも行っている。	ハザードマップを掲示したり、避難誘導の方法を教えたりしているが、徹底していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員の研修を行っている。	虐待防止委員会の体制を整えている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体的拘束を行うことはないが、もしやむを得ず行う場合の条件は組織的に決定している。	そのような事例は今のところないが、該当する子供がでた場合、保護者との話し合い、了解のもとに支援計画に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食べ物を食することがないので、特に対応はしていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		適宜、事例集を作成している。	ヒヤリハットの事例が出ないよう、日ごろから気をつけている。